

公費での子宮頸がん予防ワクチン (HPV ワクチン) について

ヒトパピローマウイルス感染を予防する HPV ワクチンは小学6年～高校1年相当の年齢の女子に公費で接種することができます。

子宮頸がんは若い女性に多いがんです。30歳代後半が最も多い年齢で、20歳代の女性にも起こります。子宮頸がんのほとんどはヒトパピローマウイルス (HPV) によって起こります。もちろん HPV が感染してもすべてがんになるわけではありませんが、感染しなければほとんど (=98%程度) 頸がんになることはありません。HPV は性行為で感染するありふれたウイルスです。一生涯に 80%程度の女性が感染するともいわれています。この HPV の感染を予防するのが HPV ワクチンです。

ワクチン接種による頸がんの予防に最も効果的なのが 16 歳までに接種をすることなのです。そのため小学6年～高校1年相当の年齢での接種が公費で行われているのです。現在国内で使用できるワクチンは3種類です。最もがんになる頻度の高い HPV 16・18 型に対する2価ワクチン、それにコンジローマというイボの原因となる6・11 型を加えた4価ワクチン、4価にさらにがんの原因となる5種類を加えた9価ワクチンです。2価・4価ワクチンではおよそ 70%の頸がんを、9価のワクチンではおよそ 90%の頸がんを予防できる可能性があります。

令和5年4月から9価のワクチンが定期接種で使えるようになりました。また、平成9年度生まれ～平成18年度生まれ(誕生日が1997年4月2日～2007年4月1日)の女性の中で、通常のパピローマウイルス(HPV)ワクチンの定期接種の対象年齢(小学校6年から高校1年相当)の間に接種の機会を逃した方に対して、HPV ワクチンを公費で接種することができるキャッチアップ接種が令和6年度までの限定で提供されています。詳しくはお住いの市町村にお問い合わせください。

当院では3種類のワクチンによる定期接種・キャッチアップ接種を行っています。さらにキャッチアップ接種の年齢を超えた女性や男性(4価のワクチンのみ)にもご希望があれば自費での接種を行っています。予約が必要ですので婦人科外来までお問い合わせください。

また、副反応や効果などワクチンの詳細についての説明を希望される方は婦人科外来にご連絡ください。予約をお取りしたうえで外来で丁寧にご説明いたします。